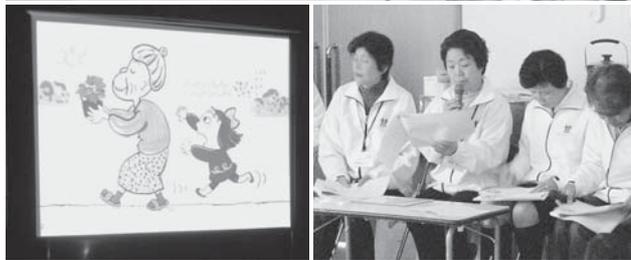


わたしたちのまちの 身近な相談パートナー 人権擁護委員

「人権擁護委員って何をしているの?」と思っている人も多いのではないのでしょうか。
今号では、人権擁護委員を身近に感じていただくために、人権擁護委員の活動を紹介するとともに、人権擁護委員の福住幸二さんにお話を伺いました。

人権啓発室 ☎63・7909



大きなスクリーンを使って紙芝居の読み聞かせを行う人権擁護委員の皆さん

関係機関と連携して 問題解決へ

現在、市内で法務大臣の委嘱を受けた人権擁護委員11人(男性5人、女性6人)が活躍しています。経歴や職業はさまざまですが、皆さん人権擁護に理解があり、地域に根ざした活動にかかわってきた

人々です。伊賀市の委員17人と「伊賀人権擁護委員協議会」を作つて、互いに交流・連携しながら「相談」と「啓発」活動を行っています。
相談活動では、法務局伊賀支局で行う常設相談(毎週月・水・金曜日)、市民情報交流センター(希中央5)で行う特設相談(毎月第

2火曜日)、社会福祉施設を訪問して行う特設相談、津地方務局が開設する各種の電話相談(ホットライン)などに取り組みほか、各委員の自宅へ直接寄せられる相談にも対応します。
内容によっては、法務局や市役所などの関係機関と連携を取り合いながら、解決に向けて相談者をサポートしています。



保育所(園)・幼稚園でも啓発活動

人権啓発活動も大切です。全ての人々が心豊かに安心して生活できる社会を実現するため、さまざまな人権啓発活動を行っています。
中でもユニークな取組みとして、保育所(園)・幼稚園への人権啓発訪問があります。これは、幼児に人権の大切さを感じ取ってもらうために、人権をテーマにした紙芝居の読み聞かせを行うというもの。一人二役は当たり前で、声を使い分けて巧みに演じます。

さらに、こうした相談・啓発活動の機会を縫うように、人権擁護活動に必要な最新情報や、相談者が安心して相談できる相談技術を身につけるために協議会で研修会を実施しています。
人権擁護委員はこのようさまざまな活動に、ボランティアとして積極的に取り組んでいます。

自分が大切にされている存在と知ってほしい



人権擁護委員
福住 幸二さん
(蔵持町原出)

わたしたち人権擁護委員は、人権相談を行っています。「人権」という言葉にとらわれず、どんな相談でもしていただきたいと思っています。「こんなことを聞いていいのかな」ということもどんどん気軽に相談していただきたいですね。どこに相談したらいいかわからないときにはわたしたちが、専門の相談機関へと橋渡しさせていただきます。

人権擁護委員の活動として相談以外にも、子どもたちがいじめなどの悩み

を手紙で相談できる「子どもの人権 SOS ミニレター」を学校に届けたり、子どもたちから法務局に届くミニレターに返事を書いたりしています。親や先生にありのままの自分を出せない子どもたちが増えています。手紙を書いてくれた子どもたちが、元気や勇気を持てるきっかけとなってくればと思います。これからも、子どもたちには、自分自身がみんなから大切にされている存在と知ってもらえるような活動をしていきたいですね。

人権擁護委員

(敬称略・順不同)

- 北川 廣一 (百合が丘西3)
- 奥野 保三 (大屋戸)
- 國富 静代 (つつじが丘南7)
- 福田 悦子 (上八町)
- 福住 幸二 (蔵持町原出)
- 山本 佳世 (桔梗が丘3)
- 田畑 千代野 (東田原)
- 森嶋 秀和 (赤目町柏原)
- 植野 あさ子 (桔梗が丘5)
- 久原 宏 (つつじが丘北10)
- 坂井 啓子 (下比奈知)

人権週間 (12月4日(日)～10日(土)) にちなんだ行事

■人権週間特設人権相談所を開設します

近所のもめごと、家庭内の問題、いじめや体罰、職場でのセクハラなど人権侵害に関する相談に、法務大臣の委嘱を受けた人権擁護委員が応じます。相談は無料で秘密はかたく守られます。

日時 12月1日(木) 午前10時～午後3時

場所 市民情報交流センター(希中央) ※ 申込不要

■人権作品展

市内小・中・高・高専生、一般の人権標語・ポスター、写真を展示
期間 12月1日(木)～11日(日)
場所 市役所1階ロビー

■人権週間街頭啓発

日時 12月2日(金)午後4時30分～(一部午後2時30分～)
◎市内各大型店舗と名張駅、桔梗が丘駅周辺で啓発物品を配布

■ふれ愛コンサート(入場無料・申込不要)

日時 12月4日(日)午後1時30分～
場所 アドバンスコープ ADS ホール(松崎町)

- ▼人権作品の表彰と朗読発表
 - ▼宮里 新一 Talk&Live
- 生き直しコンサート
～ハンセン病からの解放～

ハンセン病と闘いながら、詩を書き、歌を歌っていた人間がいたということ、一人でも多くの人に知ってもらいたい。私の生きざまを伝えたい。

